

已下荒屯食。

此外院御方進物所并廳下部、釜殿仕丁等分給之。

〔東宮御元服部類記〕元徳元年十二月、御入内日同廿七日、御加冠日同廿八日庚戌略中

一屯食百具盛屯食十五具、荒屯食八十五具、十五具前右大臣盛三具、十五具右大將盛三具、堀川大納言同十具

花山院大納言盛二具、左衛門督同十具別當盛一具、中宮權大夫同十五具別納所、今度前右府、

右大將、中宮權大夫之外、不調獻之云々、

裏飯

〔倭訓栞中編十五〕つ、みいひ 包飯の義、記錄に屯食といふ是也といへり、儀式帳には裏飯と見えり、

〔莊子大宗師〕子輿與子桑友、而霖雨十日、子輿曰子桑殆病矣、裏飯而往食之、

〔類聚名物考飲食一〕裏飯 つ、みいひ

つ、み飯調様は、所見を不得候へども、葉につ、み候事、式にもほゞ所見候へば、東武の御作法同様之事たるべく被奉存候、

〔皇大神宮儀式帳〕一年中三節祭時、供給儲備并勞作雜器事、

合貳仟肆百參拾玖具略中 裏飯仟貳佰十五裏、

齋内親王御膳二具略中 裏飯四百裏、已上六月祭之、

齋内親王御膳二具略中 裏飯四百裏、已上九月祭之、十二月祭如六月祭之、

〔大神宮儀式解二十〕裏飯は都々美伊比とよむべし、右官人已上の徒已下鳥子名等の中、長なる

ものは右折櫃いやしきものには、櫃にも筥にも不盛て、柏に飯をつ、みて充るなるべし、今世

御田祭の時、御田作丁の料の柏包飯とひとしきものならん、貞觀二年記五月櫃飯四十合、筥飯

五百合、裏飯一万六千九百六十枚、大炊式松尾祭料云々、裏飯百廿口と見ゆ、